

#### 4 大麦

##### (1) 国際的な大麦需給の概要

###### ○2008/09年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、生産の拡大ととうもろこし価格の高騰の影響を受け、飼料用需要の回復が見られ、消費量の増加も見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われると見込まれる。

###### 【生産量】

生産量は、これまでの天候が比較的良好に推移したことから、昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復し、EU、ロシア、ウクライナ等の主要生産国で増産が見込まれ、世界全体では前年度より20.8百万トン増加（15.7%）し、153.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン下方修正されており、国別には主要国以外の国が下方修正された。

###### 【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、ロシア、カナダ等主要消費国で増加が見込まれ、世界全体では前年度より10.0百万トン増加（7.5%）し、143.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン下方修正されており、国別にはロシア、米国が下方修正された。

###### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、3.6百万トン増加（23.3%）し、19.2百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では生産の回復が見込まれているウクライナ、ロシア等で輸出量の増加が見込まれているが、カナダ、カザフスタン等で減少が見込まれている。輸入国では、シリア等で輸入量の増加が見込まれるが、サウジアラビアで減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は輸出量がわずかに下方修正されたが、主要国には変動がなかった。

###### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、EU、ロシア等で積み増しされ、世界全体では前年度より9.9百万トン増加（49.2%）し、30.1百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は20.9%（5.9ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン上方修正されており、国別にはロシア、米国が上方修正された。

表－1 世界の大麦需給

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09 (単位:百万トン)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>136.5</b>	<b>133.0</b>	<b>153.8</b>	<b>▲ 0.7</b>	<b>15.7</b>
EU-27	56.2	57.7	65.5	-	13.4
ロシア	18.1	15.7	23.1	-	47.6
カナダ	9.6	11.0	11.8	-	7.2
ウクライナ	11.4	6.0	12.6	-	110.0
オーストラリア	4.3	7.2	7.0	-	▲ 2.7
トルコ	7.5	6.0	5.6	-	▲ 6.7
米国	3.9	4.6	5.2	-	14.0
<b>消費量</b>	<b>143.9</b>	<b>133.9</b>	<b>143.9</b>	<b>▲ 1.2</b>	<b>7.5</b>
うち飼料用	99.0	90.8	98.9	▲ 0.6	8.9
EU-27	55.7	54.3	57.5	-	5.9
ロシア	16.4	15.1	17.4	▲ 0.5	15.6
カナダ	10.2	7.9	9.4	-	18.7
トルコ	7.3	6.5	6.0	-	▲ 7.7
サウジアラビア	6.8	7.0	7.0	-	0.0
ウクライナ	6.5	5.3	5.8	-	9.4
米国	4.6	4.4	5.1	▲ 0.1	16.9
<b>貿易量</b>	<b>15.3</b>	<b>15.6</b>	<b>19.2</b>	<b>▲ 0.0</b>	<b>23.3</b>
(輸出)					
EU-27	3.5	3.9	4.0	-	3.7
ウクライナ	5.1	1.0	6.0	-	474.7
オーストラリア	1.9	3.4	3.5	-	3.4
カナダ	1.2	3.0	1.6	-	▲ 47.5
ロシア	1.5	1.0	2.2	-	110.3
カザフスタン	0.6	0.8	0.6	-	▲ 24.2
アルゼンチン	0.5	0.9	0.8	-	▲ 17.7
(輸入)					
サウジアラビア	6.7	7.5	7.1	-	▲ 5.3
日本	1.4	1.4	1.4	-	2.9
中国	1.1	1.1	1.0	-	▲ 8.3
イラン	0.4	0.7	1.7	-	142.9
モロッコ	0.4	0.3	0.4	-	0.6
シリア	0.3	0.2	1.5	-	900.0
チュニジア	0.7	0.5	0.7	-	40.0
<b>期末在庫量</b>	<b>21.1</b>	<b>20.2</b>	<b>30.1</b>	<b>0.7</b>	<b>49.2</b>
EU-27	5.8	5.7	9.9	-	72.9
米国	1.5	1.5	1.9	0.1	30.1
オーストラリア	1.3	2.0	1.6	-	▲ 20.1
サウジアラビア	2.5	2.9	3.0	-	3.1
ロシア	1.2	1.0	4.7	0.5	387.0
カナダ	1.5	1.6	2.4	-	56.1
ウクライナ	1.0	0.7	1.5	-	124.1
<b>期末在庫率</b>	<b>14.7%</b>	<b>15.1%</b>	<b>20.9%</b>	<b>0.6</b>	<b>5.9</b>

資料：USDA 「Grain : World Markets and Trade」、  
「PS&D」

## (2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア オーストラリア

#### 【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる影響から単収はやや回復するものの、収穫面積が減少するため、生産量は前年度より0.2百万トン減少（▲2.7%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の増加の影響を受け、前年度より0.7百万トン増加（23.8%）し、3.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（3.4%）し、3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン減少（▲20.1%）し、1.6百万トンとなる見込みである。また、期末在庫率は21.5%（9.0ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

大麦の収穫は11月から12月頃終了した。

### イ カナダ

#### 【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積が小麦と大豆の作付拡大の影響を受けて減少するものの、単収が前年度より上昇することから、前年度より0.8百万トン増加（7.2%）し、11.8百万トンとなると見込まれている。

消費量は、飼料用大麦の消費量が1.4百万トン増加（20.5%）することなどを受け、消費量全体は前年度より1.5百万トン増加（18.7%）し、9.4百万トンとなる見込みである。

飼料用大麦の輸出が減少することにより、輸出量は前年度より1.4百万トン減少（▲47.5%）し、1.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.8百万トン増加（56.1%）し2.4百万トンとなり、期末在庫率は22.3%（8.0ポイント増）と見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

#### 【生育進捗状況及び作柄】 大麦の収穫は9月頃終了した。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース44.5%）  
世界の生産量シェア 5位（2008/09年度 4.6%）  
輸出量シェア 3位（2008/09年度18.2%）

表－2 オーストラリアの大麦需給（市場年度：11月～翌年10月）

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値 (ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	4.3	7.2	7.0 (6.8)	-	▲ 2.7
消費量	3.8	3.2	3.9 (2.5)	-	23.8
うち飼料用	2.9	2.2	2.9 (2.2)	-	31.8
輸出量	1.9	3.4	3.5 (4.3)	-	3.4
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	1.3	2.0	1.6 (…)	-	▲ 20.1
期末在庫率	23.9%	30.5%	21.5% (…)	-	▲ 9.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.18	4.93	4.50 (4.51)	-	▲ 8.7
単収(t/ha)	1.02	1.46	1.56 (1.51)	-	6.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
ABARE「AUSTRALIAN CROP REPORT (February 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2007年数量ベース21.9%）  
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 7.7%）  
輸出量シェア 5位（2008/09年度 8.3%）

表－3 カナダの大麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値 (AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.6	11.0	11.8 (11.8)	-	7.2
消費量	10.2	7.9	9.4 (8.8)	-	18.7
うち飼料用	8.8	6.6	8.0 (8.3)	-	20.5
輸出量	1.2	3.0	1.6 (2.5)	-	▲ 47.5
輸入量	0.0	0.1	0.1 (0.0)	-	81.8
期末在庫量	1.5	1.6	2.4 (2.1)	-	56.1
期末在庫率	13.1%	14.3%	22.3% (18.6%)	-	8.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	3.22	4.00	3.50 (3.5)	-	▲ 12.5
単収(t/ha)	2.97	2.75	3.37 (3.4)	-	22.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
AAFC「Grains and Oilseeds Outlook (March 6, 2009)」

## ウ 米国

### 【需給状況】

米国の生産量は、前年度より0.6百万トン増加（14.0%）増加し、5.2百万トンとなる見込みである。

消費量は前年度より0.7百万トン増加（16.9%）し、5.1百万トンとなる見込みである。飼料用の消費は0.7百万トン増加（100.4%）している。

輸出量は、前年度より0.6百万トン減少（▲66.2%）し、0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン増加（30.1%）して1.9百万トンとなり、期末在庫率は35.6%（7.5ポイント増）となる見込みである。

前月の予測からの改訂は、飼料用消費量の下方修正により消費量が0.1万トン下方修正された。また、輸出量がわずかに下方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の米国の大麦の収穫は9月頃終了した。

また、作柄については、優良が8%と前年度最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では86%と前年度の最終の83%を上回っている。

2009/10年度の大麦については、ノースダコタ州で、水につかったほ場があること等のため、作付率は9%と（平年より11ポイント）遅れている。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2007年数量ベース32.1%）  
世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 3.4%）〕

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.9	4.6	5.2	-	14.0
消費量	4.6	4.4	5.1	▲ 0.1	16.9
うち飼料用	1.1	0.7	1.4	▲ 0.1	100.4
輸 出 量	0.4	0.9	0.3	▲ 0.0	▲ 66.2
輸 入 量	0.3	0.7	0.7	-	▲ 5.1
期末在庫量	1.5	1.5	1.9	0.1	30.1
期末在庫率	29.8%	28.1%	35.6%	3.2	7.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.19	1.42	1.52	-	7.0
単収(t/ha)	3.29	3.23	3.42	-	5.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

### ○ 米国大麦の進捗状況及び作柄

〔生育進捗状況（2009/10年度 主要5州）

作付率 9%（平年比：▲12p、前年比：▲11p）

〔作柄（主要5州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大麦	2008/09	8	44	34	10	4
	前年度同時期	9	53	21	9	8
	前年度最終	9	53	21	9	8

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

作柄は8月24日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

## エ EU-27

### 【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における義務的休耕率が一時的に0%と設定されたことによる作付面積の増大および天候に恵まれたことによる単収の増加を受け、前年度より7.8百万トン増加(13.4%)し、65.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の消費増大により、前年度より3.2百万トン増加(5.9%)し、57.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加(3.7%)し、4.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より4.2百万トン増加(72.9%)し9.9百万トンとなり、期末在庫率は16.1%(6.2ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

EUにおける2008/09年度の大麦の収穫は9月頃終了した。生育期に良好な天候に恵まれたフランスでは高品質の大麦が、多く収穫された。

2009/10年度の大麦に関し、この冬は降水量が平年よりも少なかったものの、今後の降雨があれば問題ない範囲であり、大麦の生育は懸念されていない。引き続き、天候に注視が必要である。

【貿易情報】穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

## オ ウクライナ

### 【需給状況】

ウクライナの実産量は、収穫面積は横ばいであるものの、良好な天候によって干ばつ被害のあった前年度から単収が大幅に改善することを受け、前年度より6.6百万トン増加(110.0%)し、12.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加(9.4%)し、5.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より5.0百万トン増加(474.7%)し、6.0百万トンとなる見込みである。前年度の落ち込みから、2年度前を超える水準にまで改善している。

輸出量の大幅な増加があるものの、生産量も大幅に増加しているため、期末在庫量は前年度より0.8百万トン増加(124.1%)し1.5百万トンとなり、期末在庫率は12.6%(2.1ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナにおける2008/09年度の大麦の収穫は8月頃終了した。

2009/10年度の冬大麦は、生育状況はおおむね良好である。

2009/10年度の春大麦の作付は順調に進み、作付面積は市場の高価格を反映して昨年より増加する見込みである。

### 【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

〔世界の生産量シェア 1位 (2008/09年度42.6%)  
輸出量シェア 2位 (2008/09年度20.8%)〕

表-5 EU-27の大麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	56.2	57.7	65.5 (65.5)	-	13.4
消費量	55.7	54.3	57.5 (55.0)	-	5.9
うち飼料用	38.7	37.8	40.5 (41.9)	-	7.1
輸出量	3.5	3.9	4.0 (7.2)	-	3.7
輸入量	0.2	0.3	0.2 (0.5)	-	▲ 41.0
期末在庫量	5.8	5.7	9.9 (8.8)	-	72.9
期末在庫率	9.8%	9.8%	16.1% (14.2%)	-	6.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.8	13.8	14.7 (…)	-	6.1
単収(t/ha)	4.06	4.18	4.46 (…)	-	6.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

〔世界の生産量シェア 3位 (2008/09年度 8.2%)  
輸出量シェア 1位 (2008/09年度31.2%)〕

表-6 ウクライナの大麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	11.4	6.0	12.6 (12.6)	-	110.0
消費量	6.5	5.3	5.8 (6.3)	-	9.4
うち飼料用	4.8	3.6	4.1 (4.9)	-	13.9
輸出量	5.1	1.0	6.0 (6.4)	-	474.7
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	▲ 49.0
期末在庫量	1.0	0.7	1.5 (0.7)	-	124.1
期末在庫率	8.3%	10.5%	12.6% (5.4%)	-	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	4.10	4.15 (…)	-	1.2
単収(t/ha)	2.18	1.46	3.04 (…)	-	108.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

## カ ロシア

### 【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より7.4百万トン増加（47.6%）し、23.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の消費量が増えたことなどから、全体で前年度より2.3百万トン増加（15.6%）し、17.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より1.2百万トン増加（110.3%）し、2.2百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、3.7百万トン増加（387.0%）し4.7百万トンとなり、期末在庫率は23.8%（17.8ポイント増）となる見込みである。

前月の予測からの改訂は、飼料用需要の減少から、消費量が0.5百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.5百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ロシアにおける2008/09年度の大麦の収穫は9月頃終了した。2009/10年度の冬大麦の生育は天候が望ましく推移したため、ほとんどの地域で越冬条件は良好であった。

### 【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア 2位（2007/08年度15.0%）  
輸出量シェア 4位（2008/09年度11.4%））

表-7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	(単位:百万トン)
生産量	18.1	15.7	23.1 (23.1)	-	47.6	
消費量	16.4	15.1	17.4 (17.8)	▲ 0.5	15.6	
うち飼料用	11.8	10.5	12.3 (12.5)	▲ 0.5	17.7	
輸 出 量	1.5	1.0	2.2 (2.3)	-	110.3	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	13.6	
期末在庫量	1.2	1.0	4.7 (5.4)	0.5	387.0	
期末在庫率	6.8%	5.9%	23.8% (27.0%)	3.1	17.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.00	9.80	9.70 (...)	-	▲ 1.0	
単収(t/ha)	1.81	1.60	2.38 (...)	-	48.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」